

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 21 年 6 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

○ 6 月の活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙は観測されませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 3 回（5 月：3 回）と少ない状態で経過しました。震源は平成新山直下の浅いところに分布し、これまでと比べて特段の変化はありませんでした。

火山性微動の発生はありませんでした（5 月：なし）。

・ 地殻変動の状況（図 1、図 4）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

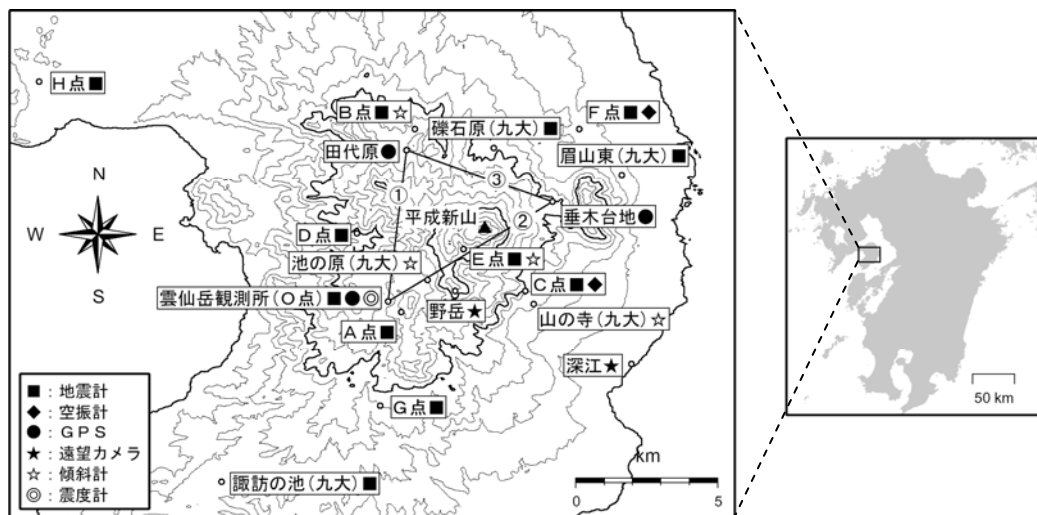


図 1 雲仙岳 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 7 月分）は平成 21 年 8 月 7 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

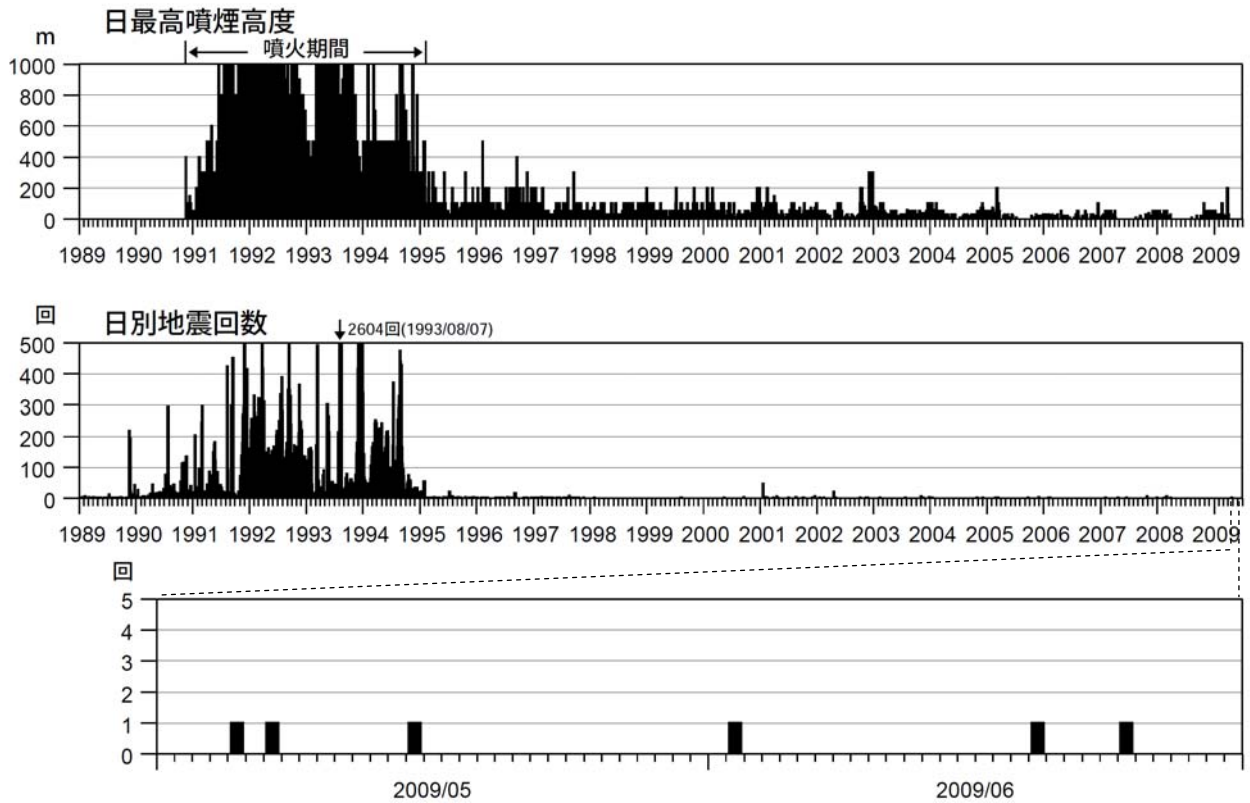


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2009年6月）
 1995年2月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

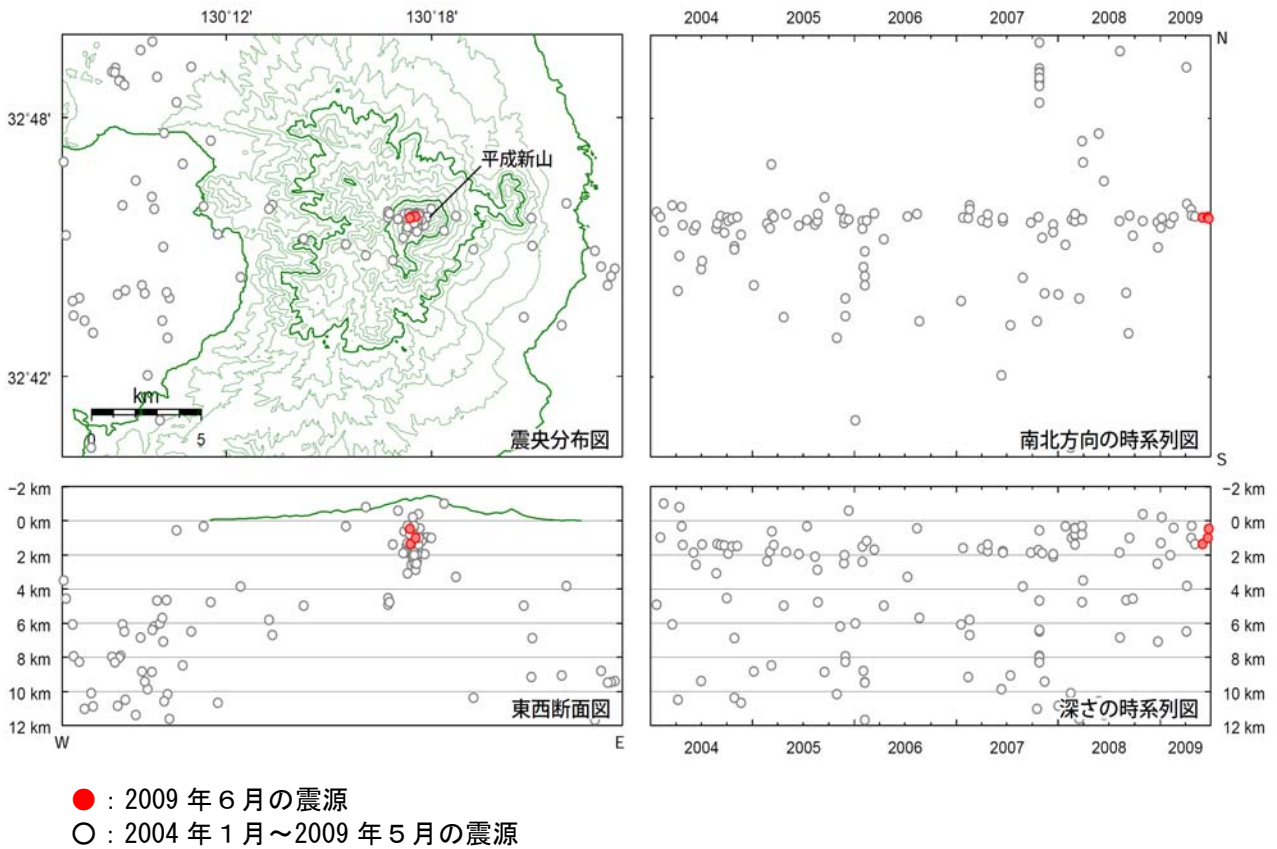


図3※ 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2009年6月）
 火山性地震の震源は平成新山直下の浅いところに分布しました。

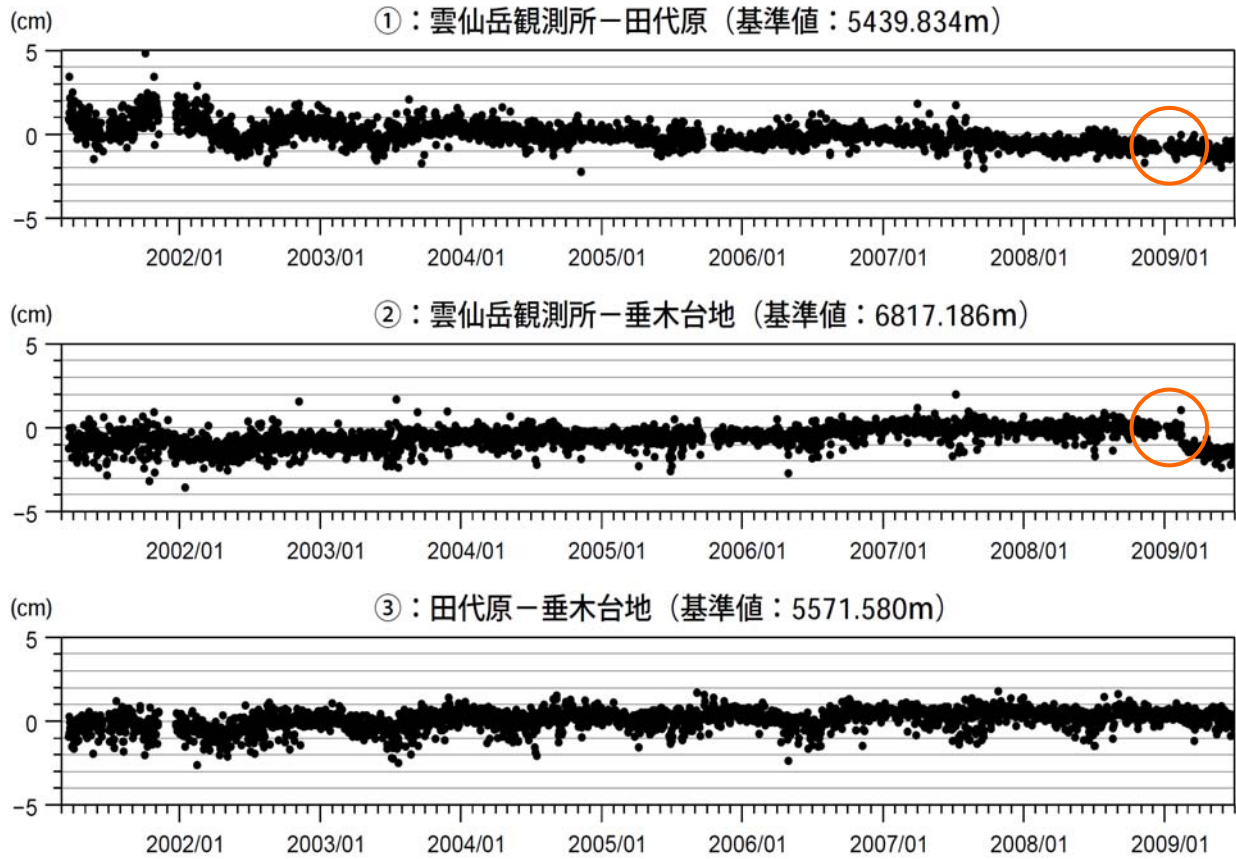


図 4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2009年6月）
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 1 の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる 2 月からの変化は、原因は不明ですが、雲仙岳観測所の庁舎解体による変動の可能性がります。